

海洋教育パイオニアスクールプログラム 成果報告資料

基本情報

学校名	山形県鶴岡市立大山小学校
活動名	広がる！ぼくたちの地域～大山と加茂の世界を知ろう！体験しよう！～
教科	総合的な学習の時間
学年	第5学年

目的=2017年度版 大山小学校 プログラム立案のコンセプト

◆海洋活動を通して、山形県、庄内の自然を俯瞰し児童の視野を広げる。

本校は、旧大山小学校と旧加茂小学校が統合し新大山小学校としてスタートした。高館山のすそ野に広がる庄内平野の一角に建つ歴史と文化の大山小学校に対して、加茂の港を拠点とする海洋教育を進めてきた加茂小学校。統合によって高館山、大山川、庄内平野、日本海を有する学区となる。統合を機に新校として、海洋教育を取り入れ、山から海に至る自然の壮大なつながりに気づかせるとともに、両地区に伝わる異なる文化に触れさせて、体験させることで児童の視野を広げることを目的として計画を立案し、実施した。

◆3年間で、海洋教育プログラムを確立し、本校の重点活動として継続

H29 →5年生の宿泊体験学習のプログラム作成

H30 →学校全体として、海の自然や海洋文化に触れる学習活動の展開

H31 →大山小学校 海洋教育プログラムデザインの完成

H32～→毎年、活動を振り返り、見直し、リニューアルしつつ中心活動として実施していく。

活動内容

1 総合的な学習の時間の計画の立案

(1) 地域の自然、文化に触れる活動の展開のための全体計画の見直し

- ・恵まれた学びのフィールドポテンシャルを生かすために、すべての学年の総合的な時間の計画についてねらいやテーマを見直し、再構成した。

(2) 5年生は海洋活動をメインに計画を立案

- ・5年生で例年行っている自然教室は山活動を行ってきたが、海辺をフィールドに活動を展開することとし、活動内容を全面的に見直した。
- ・また、宿泊体験学習の他にも海辺の文化を学ぶ活動も位置づけた。【表1】

【表1】

5年	テーマ：くらしを学び伝える										
	①おいしいお米づくりパート1 ・米の学習 ・田植え体験										
	②感じて、伝えよう故郷のすばらしさ ・大山、加茂まるごと自然教室				④「わが町自まん」地域の良さ再発見 ・地域探検・自まん発信						
	③伝えよう大山小のこと ・音楽で伝える大山小の文化										
	①おいしいお米作りパート2 ・収穫体験 ・収穫感謝祭										

2 5年生「自然教室（宿泊体験活動）」の実施に向けて

(1) 地域の資源の掘り起こし

- ・これまで旧加茂小学校で、実施してきた海洋活動をもとに、今年度新校として実施可能な活動は何かを検討した。また、加茂地区の関係団体との連携や情報交換を進め、協力体制の整備も行った。

(2) 実施可能な活動

- ・ヨット、海の生物観察、磯釣り、水族館見学、漁船体験

(3) 関係団体

- ・山形県立加茂水産高等学校（食品加工体験、漁業学習）
- ・鶴岡市立クラゲドリーム館（バックヤードツアー・飼育実習）

3 宿泊体験活動の実施

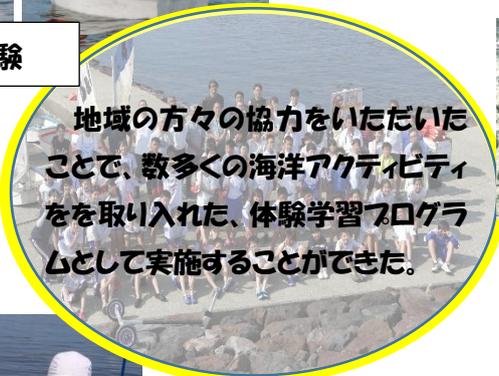
(1) 活動の様子から



ヨット操船体験



漁船乗船体験



地域の方々の協力をいただいたことで、数多くの海洋アクティビティを取り入れた、体験学習プログラムとして実施することができた。



磯の生き物観察



磯釣り体験



サンセットウォッチ



港文化を学ぶウォークラリー

(3) 成果と課題として

- 新校としての今回の活動を通して、教師も児童も学区を俯瞰し、深く知ることができた。
 - 地域の方々との運営会議を行い、活動の内容や進め方について助言をいただいたことで、当初計画していた以上に多様な活動を取り入れることができた。
 - 加茂水産高等学校との連携や、漁協や水産試験場等の施設の活用等、今年度は実施できなかったが、次年度に向けてさらに幅のある活動をする見通しを持つことができた。
- ▼プログラムとして、学習との関連について整理していくことが必要。

4 今後として

- ・初年度ということで、手探りの中の実践になっている。より幅広く、多様な見方で児童が体験をとおして、海の自然に触れるだけでなく、港町としての文化や、漁業について学びを実感していくことができるようにしていきたい。

テーマ 広がり！ぼくたちの地域～大山と加茂の世界を知ろう！体験しよう！～

プログラム作成に向けてのコンセプト

- ❖本校は、旧大山小学校と旧加茂小学校が統合し新大山小学校としてスタートした。
これまで、両校で、地域素材を活用した活動を継続的に行ってきたり、児童の地域に対する興味や関心を高め、理解することにつなげてきた。
- ❖旧大山小学校では、高館山とラムサール条約指定の湿地「下池」を抱えており、全校での高館山登山や下池にある体験型施設「ほとりあ」と連携し、学習活動を行ってきた。また、古くからの酒蔵が立ち並ぶ地域でもあり、自然・環境に関する学習だけでなく、歴史・文化を学ぶ活動にも力を入れてきた。
- ❖一方、旧加茂小学校では、加茂の港を拠点とし、遠泳やヨットなど、海洋活動をおこなってきた。また、クラゲ展示数世界一の「クラゲドリーム館（加茂水族館）」や伝統ある水産高校と連携し、漁業や港文化にふれる活動にも取り組んできた。
- ❖今年度の統合によって、本校は、山・湿地・海の豊かな自然を学区として有する学校となった。地域のあふれる魅力を生かし、これまで行ってきた体験活動も統合し、児童一人一人の広げ、新しい学区を知ることを通して、ふるさとへの興味関心と愛着を育てていきたいと考えた。
- ❖活動は、総合的な学習の時間中心に実践することとし、興味関心で課題を解決する力、追及する力、表現力、かかわり合う力を育て、児童一人一人が学んだことをもとに、現在や将来の生き方を考えることにつなげていきたい。
- ❖学習活動は、広がった地域理解を深めること、また、可能な活動内容を発掘することをふまえ、海洋活動を中心とした自然体験活動をプログラム化することに取り組んだ。

発達段階に応じた海洋活動の展開

- 海洋活動は第5学年を中心に行ったが、他学年も生活科、理科、社会科の学習と関連させて、全学年が体験できるように計画を立てて進めた。
- 今年度は初年度であったため、どのような活動が実施可能かを検討し、できる範囲で実践を進めたため、系統性については、精選されていない部分があったため、実践報告1に示したとおり次年度以降、実施した活動について系統性を整理して継続できるプログラムにしていく。

第5学年の活動

○時数 5月から2月（総合的な学習の時間 65時間 社会科 5時間）

○関連 理科、社会科

- 目標 (1)「海に触れる」活動を通して、自然の豊かさや大切さを感じ、理解を深める。
 (2)海での直接体験を通して、自ら課題を見つけ、仲間とのかかわりを通して、解決する力を育てる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
体験的な活動		感じて伝えよう故郷のすばらしさ ◆海をフィールドにした自然教室 ①海へつながる道＝高館山加茂縦走＝ ・大山地区の高館山から海辺の加茂地区まで、登山をしながら移動することで、地域の湿地→山→海へのつながりを感じる。				感じて伝えよう故郷のすばらしさ ◆海とかかわって生きる人から学ぶ ①水産高校の活動を体験 ◇稚魚の放流 ・これからの水産業を支えるための水産高校の取り組みを知る。							
	探究的な活動		②海の魅力を感じる ＝ヨット、磯の生物観察、漁業体験＝ ・自分の知りたい、調べたい活動を選択し課題をもちながら体験を通して探究する。 ・海洋活動を通して、海の豊かさや魅力を感じる。 ・海の生物の観察を通して、海の自然への興味を高める。										
		表現活動		③体験を発信＝体験マップ作り＝ ・体験したことをもとに、全校へ体験を伝えるとともに、加茂地区の海の魅力について、伝えたいことを選びながら表現する。				わが町自まん ◆地域のよさを再発見」 ①大山・加茂地区よさを俯瞰。 ・一年間の体験を振り返り、体験をまとめる。 ②地域のよさを、深く調べる。 ・体験の振り返りをもとに、詳しく調べたいことを個人で課題を設定し、地域の方へのインタビュー、書籍と等で調べる。 ③地域のよさを発信する。 ・課題に沿って、調べたことを伝えるために、プレゼンテーションソフトを活用し、オリジナルのプレゼンで伝える。					

